

日本ALS協会

秋田県
支部だより

第58号

事務局からのお知らせ

協力して下さる方を募集しています。

秋田県支部では運営を手伝って下さるボランティアを募集しています。

□主 旨

支部の活動は、この厳しいALS（筋萎縮性側索硬化症）で闘病されている方達と共に、日本ALS協会と連携をとりながら療養環境改善や社会への理解を深めることを基本にして、具体的には下記のような活動をしております。

□具体的活動

- 1) 総会を開催して、会員互いの理解と交流を図っています。
- 2) 研修会を開催します。
- 3) 患者さん達へ訪問します（慰問と話し合い・闘病の課題確認など）。
- 4) 患者さんの相談ごとを受けたり、関係行事や情報を発信します。
- 5) 支部だよりを年2回発行し、情報の基幹としています。
- 6) 事務局会議を月1回（土曜日）開催しています。
- 7) その他ALS患者を支援する事項に対応します。

□現在の事務局

現在、事務局は医療関係者・患者家族・ALS患者などさまざまです。どなたでも力を貸していただければ大変助かります。

□募集対象

年齢・性別・経験等は問いません。

自分の持つ能力を前向きに、他人のためにも生かそうと意欲をもっておられる方。

□連絡先

住 所：〒010-0003 秋田市東通7-4-26 長谷部方

電 話：090-5838-3606（事務局）

F A X：018-832-8778（事務局）（F A X番号が変更になりました）

Email：als-akita@outlook.com

日本ALS協会 秋田県支部

目次

平成28年度 第30回日本ALS協会秋田県支部総会	2
・ 日程場所、プログラム、決算・予算等資料	
・ 監査報告	
・ 参加者談話・DVDの内容・参加体験記	
・ アンケート集計	
・ 松本さんを偲んで	
初めてのALSグローバルデー	21
本部総会に出席するために東京へ	22
初孫と…。	24

入会申込書

ご寄付ありがとうございました

平成28年度(第30回)日本ALS協会

秋田県支部 総会・交流会

日 時：平成28年6月 5日(日)13:00 ～ 15:30

会 場：秋田県ゆとり生活創造センター 遊学舎
会議棟

〒010-1403 秋田市上北手荒巻字堺切24-2

TEL : 018-829-5801 FAX : 018-829-5803

日 程：12:30～13:00 受 付
13:00～13:20 総 会
13:20～13:30 記念撮影
13:30～14:00 演奏会
14:00～15:00 故松本茂名誉会長を偲ぶ会
15:00～15:30 交流会

※秋田県支部連絡先

住 所：〒010-0003 秋田市東通7-4-26(長谷部方)

T E L : 090-5838-3606(事務局)

F A X : 018-832-8778 (事務局) (変更しました)

Email : als-akita@outlook.com

総会次第

1. 開 会
2. 物故者 黙祷
3. 支部長あいさつ と 来賓あいさつ
4. 議長選出
5. 議 事
 - 1) 第1号議案
平成27年度活動経過報告及び平成27年度会計報告・会計監査報告について
 - 2) 第2号議案
平成28年度活動方針及び平成28年度会計予算について
 - 3) 第3号議案
役員改選について
6. 事務局員紹介
7. 閉 会



開会の挨拶

皆さまこんにちは。

本日はお忙しい中、日本ALS協会秋田県支部総会にご参加くださり、ありがとうございます。

昨年度は県南と県北の2か所で交流会を行ったほか、患者訪問も行いました。

患者さんやそのご家族のお話を伺い、家族介護の負担や痰の吸引を引き受けてくれる事業所が少ない等課題がありましたが、皆さまと一緒に解決に向けて考えて行きたいと思っております。

今年度は6月21日のALSグローバル・デーに秋田支部でも秋田駅ぽぽろードで募金活動等を行うほか、9月17日にはアルヴェで全国自立生活センター協議会主催の呼吸器を使いながら地域で自立生活をする重度障害者のドキュメンタリー映画『風は生きよという』の上映会があります。

皆さまの参加を心よりお待ちしております。

総会終了後、昨年12月に亡くなられた松本茂さんを偲ぶ会では往年の松本さんの様子を記録したDVDをご覧いただき、松本さんをよく知る方々より当時のエピソード等をお話しいただく予定です。松本さんは30年前、ほかの発起人と共に秋田県支部を設立しました。

当時はALS患者が在宅療養をするための制度が何も無く、人工呼吸器を付ければ一生病院で生活するのが当たり前だった時代に人工呼吸器を自費購入して在宅生活を始められ、療養環境を整えるため行政に訴えるなど精力的に活動してくださいました。

今日私たちの療養環境は当時とは比べ物にならない程によくなりましたが、それは松本さんをはじめ、先人の方たちが行政に訴え続けてきた結果だということをご忘れずにください。

秋田県支部としては今後も少しでも療養環境がよくなるよう、また、家族の介護の負担を減らせるよう活動して参りますので、患者・家族の皆さん、共に頑張りましょう。関係者の皆さま、今後ともより一層のお力添えを、何卒よろしくお願いいたします。

また、本日は皆さまにお願いがあります。

協会の活動は会員の皆様からの会費や寄付により支えられております。

知人、友人お誘いあわせのうえ、ぜひご入会くださいますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げ挨拶に代えさせていただきます。

平成28年6月5日

日本ALS協会 秋田県支部長 安 保 瑠 女



〈第1号議案〉

平成27年度 活動経過報告書

年月日	事項	場所	内容
[H27年]			
4月11日	事務局会議	長谷部宅	平成27年度総会(第29回)開催についての計画(日程・役割分担・物品準備等) ホームページの更新について
	会計監査		平成27年度支部会計を監査
4月18日	支部便り発送	長谷部宅	第55号454部発送
5月23日	事務局会議	安保宅	平成27年度総会(第29回)開催についての確認 JALSA主催「医療的ケア拡充のシンポジウム」の場所予約
5月26日		秋田県中央地区老人福祉総合エリア多目的ホール	総会会場の下見
5月10日		社会福祉会館	難病連総会出席(長谷部副支部長)
5月30日		戸山サンライズ	日本ALS協会総会出席(長谷部副支部長)
6月 6日	事務局会議	秋田県中央地区老人福祉総合エリア多目的ホール	県北・県南交流会、11月支部便り発送、平成28年度の総会の日程決定 JALSA主催シンポジウムのシンポジストの決定
	総会・交流会		平成27年度総会・交流会(第29回)開催 参加者41名
6月 9日			赤い羽根共同募金会へ会計報告
7月11日	事務局会議	安保宅	総会の反省 第56号支部便りの発行についての計画 患者訪問についての日程等の確認
8月 8日	患者訪問(2名)	患者宅	(安保支部長、長谷部副支部長、佐藤事務局長、他6名)
	事務局会議	ファミレス(昼食時)	県北・県南交流会の確認 (場所決定、日程、事前準備等) 支部便り56号の内容、締切日の確認
8月24日	事務局会議		JALSA主催シンポジウムのチラシ発送(177通) 交流会のご案内送付
8月29,30日		青森	JPA東北ブロック会議出席(長谷部副支部長)
9月 5日	事務局会議	安保宅	JALSA主催シンポジウムの日程、役割等の確認、 県北・県南交流会の日程、役割等の確認

9月19日	事務局会議	遊学舎	北海道・東北ブロック会議の出席者の確認 来年度の計画に向けて JALSA主催「ALS患者等の医療的ケアシンポジウムーこまちでGO！！」開催 70名程度参加
10月 3日	県北交流会 事務局会議	能代厚生医療センター 2階講堂	24名参加 報告事項の確認
10月31日	県南交流会 事務局会議	サンサン横手	27名参加 30周年の計画 支部便り56号発送作業日変更等
11月 1日	JALSA北海道 東北ブロック 会議	福島	JALSA北海道・東北ブロック会議出席 (長谷部副支部長、佐藤事務局長)
11月21日	支部便り発送 事務局会議	長谷部宅	支部便り56号440部発送 30周年、グローバルデーの計画
12月 5日	事務局会議	安保宅	平成28年度支部総会、グローバルデーの内容等 の計画
[H28年]			
1月16日	事務局会議	安保宅	秋田県支部総会、グローバルデーの内容等の確認 第57号支部便りの原稿について
2月13日	事務局会議	長谷部宅	秋田県支部総会内容等の確認 第57号支部便りの原稿について
3月12日	事務局会議	安保宅	秋田県支部総会の日程、内容等確認 第57号支部便りの内容の確認



平成28年度 活動方針(案)

1. 支部便りの発行や研修会の開催などを行います。

ALS患者の療養改善に役立つことを基本に、いろいろな情報や関係法令施策など参考になることや、生きがい発見につながる患者さんからのお便り、医療福祉の専門家やボランティアなどからの報告など、参考になることを紹介します。

また、療養に関する研修などを行います。

※皆様の情報や質問、提案、写真など、どしどし送って下さい。

2. 患者訪問や地域交流会に努めます。

患者さんの療養実状を把握することにより、活動の的確化と、一人だけで落ち込まないための連携強化に努めます。

また、患者会員のネットワーク(県難病医療ネットワークへの対応と協力)の充実のため、地域世話人との連携強力に努めます。

3. 介護保険やその他の相談を申し受けます。

お困りごとは気軽に秋田県支部までご相談下さい。問題解決については関係機関に働きかけをします。

4. 障害福祉機器の支援を行います。

意思伝達装置やコール、文字板などの操作の仕方、トラブルなど相談体制を整えました。

※お困りの方はご相談下さい。

5. ホームページの運営。

ホームページを運営し、皆様への情報伝達やご意見等への対応に応じます。

6. 日本ALS協会(本部)への会員募集を勧めます。

障害者総合支援法への対応など、病気を患っている方への力を増すためには、協会本部との連携を深め、活動力強化が必要です。そのためには本部会員を増やすことが大切であり、加入をお勧めします。

※ 日本ALS協会の入会ご案内は、支部事務局または、支部便りにあります。

会員会費は、年間4,000円/人。この会費を元に、各県支部に活動助成され、当支部の活動資金となっています。

会費納入先 『加入者名：日本ALS協会』 郵便振替口座 No00170-2-9438
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-15-15 瑞鳥ビル1F
TEL：03-3234-9155 FAX：03-3234-9156

平成28年度 秋田県支部役員名簿(案)

役職名	氏名	備考
支部長	安 保 瑠 女	患者
副支部長	長谷部 ひとみ	患者家族
事務局長	佐 藤 夕 子	支援者
事務局員	鈴 木 光 子	支援者
	岸 本 あや子	支援者：会計担当
	木 下 彩 子	支援者
	田 村 沙央里	支援者
	福 井 喜 美	相談係
	梅 川 素 子	患者家族
	齊 藤 康 子	患者家族
会計監査	星 佳 子	支援者
	山 口 貴美子	支援者
相談役	廣 田 紘 一	医 師
	豊 島 至	医 師
	石 黒 英 明	医 師
	芋 田 強	医 師
	小 林 道 雄	医 師
	和 田 千 鶴	医 師
	菅 原 正 伯	医 師
	鎌 田 幸 子	医 師
	大 川 聡	医 師
	松 本 る い	大潟村
地域世話人	桜 田 美 穂	能代市
	赤 平 綾 子	横手市

日本ALS協会 秋田県支部規約

設 定：昭和61年5月10日(改：H11.9.4) (補正：H23.6.18)

1. 本会は日本ALS協会秋田県支部(略称：JALSA秋田)とする。
2. 本会は、地域社会への啓発とALS(筋萎縮性側索硬化症)をとりまく療養環境の改善を図ることを目的とし、日本ALS協会本部と緊密な連携をとりながら、次の活動を行う。
 - ①会員相互の交流、研究活動
 - ②患者の療養環境改善のため、常に関係者と連携し充実をめざす。
 - ③未入会患者家族への常に関係者と連携し、充実をめざす。
 - ④ALSについて啓蒙や情報活動に努める。
 - ⑤その他
3. 会員は、原則として秋田県内在住の日本ALS協会正会員、賛助会員、特別会員をもって構成する。
4. 役員は次のとおりとし、任期は原則として1年、再任を妨げない。
支部長、副支部長2名、事務局長、運営委員(事務局)若干名、会計監査2名、そのほかに相談役、地域世話人を設ける。
5. 支部長は総会や役員会を開き、支部の運営に当たる(必要に応じ、地域交流会を開く)。
6. 支部総会は原則として年1回とし、次のことを決める。議決は出席者の過半数をもって成立する。
 - ①役員選出
 - ②活動報告、決算報告
 - ③活動方針、予算の決定
 - ④規約の改廃、その他
7. 事務所は支部長宅に置くことを基本とする。
8. 支部活動に必要な経費は寄付金、助成金、その他の収入でまかなう。
9. 会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

平成27年度 会計報告書

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(単位：円)

収入	1,160,750	
支出	776,355	
差し引き	384,395	(次年度へ繰越し)

《収入の部》

項目	予算額	決算額	増減	内容
日本ALS協会より	187,000	186,500	-500	活動助成金
皆様よりの寄付	500,000	517,995	17,995	63名、3団体
歳末たすけあい	150,000	120,000	-150,000	難病連経由
雑収入	100	65	-35	貯金利子
前年度繰越金	336,190	336,190	0	
計	1,173,290	1,160,750	-132,540	

《支出の部》

項目	予算額	決算額	増減	内容
支部だより	300,000	263,844	-36,156	印刷製本費(55,56号)
活動費	300,000	224,981	-75,019	総会、交流会、会議費、HP
通信費	200,000	160,129	-39,871	送料、切手、ハガキ、電話
事務費	200,000	34,397	-165,603	大封筒、事務用品
負担費	36,880	36,000	-880	難病連
図書購入費	10,000	0	-10,000	
予備費	126,410	57,004	-69,406	本部会費、レタックス
計	1,173,290	776,355	-396,935	

会計監査報告書

私たちは、日本ALS協会秋田県支部の平成27年度会計について下記により
監査したので報告します。

期 日：平成28年4月16日(土)

場 所：日本ALS協会秋田県支部事務局(長谷部宅)

対 象：貯金通帳、 郵便振替受払通知書綴

受払領収書、金銭出納整理簿、

関係文書綴り、関係資料、

結 果：今回の会計監査にあたり、会計監査対象範囲に不正不明な箇所
はなく適正と認めました。

平成28年4月16日

会計監査者

星 佳子 (印)

会計監査者

山口 貴美子 (印)

●支部総会

1. 開会
2. 黙とう
3. 支部長挨拶
4. 来賓挨拶
 - 4-1. 県 健康福祉部
健康推進課 工藤様
 - 4-2. 岡部会長
5. 議長選出 → 菊地
6. 議事
 - 6-1. 活動経過報告(佐藤夕子)
 - 6-2. 活動方針案(佐藤)
 - 6-3. 役員改選について(鈴木)
7. 事務局員紹介(長谷部)
8. 演奏会→閉会
9. 記念写真撮影

●故 松本茂名誉会長を偲ぶ会

1. DVD上映「松本茂の軌跡」
2. 松本さんとの思い出を語ってください
廣田先生
山口さん
石黒先生
金子レイ子さん

●患者交流会

近況報告や松本さんとの思い出など

田中さん・梅川さん・豊島先生
芋田先生・高橋さん・中村さん
菅原先生・和田先生・柴野先生
原先生・猿田さん・渡辺さん
中森さん・岡部さん

●閉会挨拶

〈来賓挨拶〉

* 県健康福祉部 健康推進課 工藤 様

今年度の総会開催に心からお祝い申し上げます。関係者の皆様、難病対策のご協力へお礼申し上げます。

秋田県支部は昭和61年のALS協会とほぼ同時に発足、全国で最も早い立ち上がりでした。そのことに深い敬意を表します。

初代秋田県支部長の松本名誉会長のご逝去に、謹んで哀悼の意を表します。松本名誉会長は、ALSという病気に対する社会の理解を得るため精力的に活動され、在宅療養の道筋をつけてくださいました。

現在、秋田県内で指定難病の医療費助成を受けているALS患者は125名で、うち35名は人工呼吸器を装着して療養を続けておられます。

私どもはご家族の介護負担軽減のため、痰吸引の制度化や、災害発生時の避難方法の確立、訪問看護ステーション利用の助成などの活動を行っています。患者さんご本人・ご家族・関係者の方々が打ち合わせするための場の提供なども行い、よりよい療養環境を築くための支援を行っております。随時ご相談も受け付けています。

私どもは、患者の皆さんがこの病気と闘いながら前を向いて過ごせるよう、今後も関係機関と連携して進めて参ります。

医療関係者の皆様、ボランティアの皆様へ、今後ともどうぞご協力をお願い申し上げます。

最後に、秋田県支部の今後のますますの発展を祈念して、ご挨拶に変えさせていただきます。

* 日本ALS協会 岡部宏生 会長

こんにちは、岡部宏生と申します。帽子をかぶったままで失礼します。

松本名誉会長に感謝をささげます。

関係者、参加者の方々に開催のお祝いを申し上げます。

この難病は関係者の支援が不可欠です。

患者は孤立しないよう、患者同士で情報や気

持ちを共有することは大事です。

この会で交流を深められればいいですね。

ALS of unknown cause , no treatment , no hope

「ALSは原因不明、治療なし、希望なし」といわれます。

10年前に自分が発病した時、うまいこと言うなと思いました。ですが今は『希望なしというのは大きなお世話だ、希望とは心の問題、各自の解釈の違い』と思うようになりました。

今はALSの研究が進んでいて、多くの希望も見えてきています。

私たちを取り巻く状況は厳しいですが、希望はあるのです。

人にはそれぞれの人生あり。皆さんで手を取り合って頑張っていきましょう。

* 日本ALS協会会長 岡部宏生

〈故 松本茂名誉会長を偲ぶ会〉

1. DVD上映「松本茂の軌跡2007」
(※松本さんの肉声も収録した超貴重映像、
上映時間は約20分)
別紙参照

2. 松本さんとの思い出を語ってください

◎DVDに登場した廣田先生

松本さんは当初、『人間は死ぬ権利があるから自分は尊厳死を選ぶ、呼吸器は着けない』とはっきりおっしゃっていて、我々もどうしようかと思っていました。しかし奥さまが、『まだまだ生きられるのにもったいない、一度きりの人生でしょう』というのを聞いて、松本さんは、『ALSと闘って生きるぞ』と決心を固められました。松本さんの望みは『農業をやりたい』その一心でした。

当時、神奈川県長岡さん以外、呼吸器をつけて在宅という人は日本でもほとんど例がありませんでした。松本さんは、当時は高級品だった人工呼吸器を自費で購入されました。皆で必死になって特訓しました。呼吸器の扱い方や痰吸引、いろいろやったことを思い出します。

松本さんは退院後大潟村に戻られましたが、呼吸器トラブルが発生し佐藤婦長さんが代替えの機械をもってタクシーで走ったこともありましたが。本当に、我々にとっても全く新しい経験ばかりでした。

松本さんのお宅では、生活のいろいろな工夫がすごくて、我々は驚くばかりでした。文字盤など、自分の意思を伝えるための様々な工夫をされていました。また、リハビリボードに身体をくくりつけて、毎日毎日かならずリハビリをやっておられました。入院していた頃から、病室のドアにボードをくくりつけてリハビリをされていて、その頃からの習慣です。私は、『呼吸器を外して自分の力で呼吸するというのを、一日の中で何分でもいいからやってください』と指導して、松本さんはそれを必ず実践されていました。

松本さんは編み出した工夫を自分だけのものにせず、公開して全国の患者さんの役に立つようにしていました。それが松本さんのすごいところだと思っています。

吸引に関しましても、カテーテルの入れ具合や加減というものがあって(例えば、浅い深い具合や、深すぎると苦しい等)、何回も何回も吸引に関する教育をしながら、そういう(在宅療養)体制を作っていました。

あの頃は医療関係者と家族しか吸引をしてはいけないという決まりがあって、松本さんは早くから厚労省に陳情をしておられましたが、危険を伴う医療行為なので、なかなかOKが出ませんでした。平成14年には18万人分の署名を持って厚労省に行って、いろいろ意見を戦わせました。その翌年ようやく許可が出ました。それからは、介護の現場でも、一定の研修を受ければ吸引が可能になりました。そういう努力を粘り強くされていたので、今ではALS患者さんが安心して在宅治療を受けることが可能になりました。とにかく、そういう、並々ならぬ努力をされていました。

今後松本さんを真似出来る人はなかなか出ないだろうと思います。その陰には、いつも明るく対応し、いろんな困難を切り開いていかれる奥様の功績がありました。私も松本さんに出会ってALSの見方も変わったし、人間の力というものを感じました。松本さんに出会えてよかった。本当にありがとうございました。

言いたいことはまだいっぱいありますが、最後に松本さんは「自分は、ALSが治った第一号の患者になりたい」と言っておられました。今、

多くの若い人が松本さんの志を継いでおられるのを見て、満足されているのではないかと思います。

ありがとうございました。

◎山口貴美子さん

最初に『呼吸器をつけた人のケアを』という話をいただき、自分にできるかな？と思いつながら、いろんな人にアドバイスをもらって、松本さんを訪ねてみました。いざ松本さんのお宅に入ってみたら、るいさんがとてもやり手で、ボランティアやいろんな人を集めていました。松本さんの強靱な精神力に、私自身が元気づけられながら、やって来られたと思います。るいさん、本当にお疲れ様でした。

◎石黒先生

神経内科で実習中の学生さんを松本さんの訪問診療と一緒に連れていくと、松本さんはとても喜んで、学生さんに『この病気を治してほしい』と真剣に訴えておられました。我々にもひしひしと真剣さが伝わってきました。

後半はだいぶ肺の方が苦勞されて、苦しい時期がありましたが、それでも希望を失わずに、目が見えなければ目を治してほしいとしっかり訴えて、最後まで前向きな人だったと思います。

◎金子レイ子さん

松本さんに謹んでお別れの言葉を申し上げます。

脳研に入院したころ(高度成長期)、私自身商売をしていた時で、脳研で看護師として働いていた佐藤夕子さんの紹介で松本さんにお会いし、前進するのみと決意しました。

主人が松本さんにはじめてお会いしてからはみるみる明るくなり、それから好きな将棋で5段を取ったり、本を出したり。病気をしている主人が、22年間ずっと、私と家族を支えてくれました。これも松本さんのおかげです。

松本さんは地域にも大変な貢献をされていて、助言助力を惜しまず、精神的にも、いつもくじけそうになっていた私たちを温かく見守ってくれて、元気が出たものです。

その松本さんが旅に出られたことはとても寂しいです。どうか皆を天国で見守り、安らかに眠ってください。

◎田中さん

横手の田中です。5月の半ばにすごい熱を出しましたが入院を嫌がり、紆余曲折あって、やっと先生のOKが出てこちらに参加出来ました。何か機会があれば外に出たいと常々申しております。5月から美郷町のデイサービスに週1回通っています。とても楽しみにしているのでこれからもお世話になろうと思っています。今まで呼吸器を着けてからも順調に来たのですが、安保さんのこの前の記事ではないですが、できることを、できるうちに、できるだけやっていきたい、というのが家族の願いなので、これからも、いろんな人の話を聞きながらやっていきたいです。

松本さんにはいろんなことを教えていただき、希望を持ってやっていこうと思えました。奥様にはこれからも教えていただけたらと思います。松本さんのご冥福をお祈りいたします。

◎梅川さん

私も横手から来ました。一時肺炎で入院しましたが元気になりました。現在は週2回ヘルパーさんが来てくれて、今も求人を出しているので良い人が来てくれればと思っています。来年は親子3代で参加できればいいなと思っています。松本さんには本当にお世話になりました。母に勇気を与えてくれました。在宅で15年間やって来れたのも松本さんのおかげです。るいさん、これからもよろしく願います。

◎豊島先生

第一回総会にいました。松本さんの話は覚えていますが、自分がその場でどこにいたかは覚えていないのです。松本さんと何か約束をしたような。確か、秋田大学に神経内科を作ってくださいという話でした。途中まで出来かけたのですが、うまくいなくて。2年前からあきた病院で副院長として、ALSで長期療養できる環境を整えることになりました。

その後難病法ができ、レスパイト入院が制度化されつつあります。最初のころ松本さんが考えていたことが、ようやく実現しつつあります。松本さんとるいさんの大変な努力によるものです。

◎あきた病院 芋田先生

秋田に来たのは昭和62年です。支部設立の時にはいませんでしたが、62年以降は休みなく出ております。松本さんとは2回目の総会でお会いした時からのつきあいです。

松本さんの思い出...「お前は本当にやる気があるのか」という目つきで見られていたような気がします(笑)。

当時のALSを取り巻く環境は劣悪でした。ですが、毎年毎年少しずつではあっても状況はよくなってきています。それは、松本さんの努力のおかげと思っています。

◎今年から在宅療養を始めた

由利本荘の高橋さん

皆さんとこれから交流を深めていきたいので、よろしく願います。

(事務局鈴木)昨年到我々支部で高橋さんのお宅を訪問しました。口頭でお話ができる方です。今後どうなるのか、他の患者さんがどんな生活をしているのか気になるとのこと、総会への参加をお誘いしてみました。

◎初参加の秋田市中村さん

こんにちは、はじめまして。突然の御指名ありがとうございます(笑)。今日は初めてお邪魔しました。発症は2年前でした。今のところ、食う飲むはできています。若干言葉が、特に、緊張すると言葉が出づらい。あと、足が重いです。ここにきていろいろ教えていただきました。今日はありがとうございました。

◎秋田大学附属病院 菅原先生

平成2年に秋田に戻ってきました。この病気の療養環境はかなり変わってきています。病気の究明にはなかなか至っていないのですが、療養環境がよりよくなっていくように自分も努力していけたらいいなと思っています。

◎あきた病院 和田先生

ALSの患者さんに関しては、入院していても、医療・ケアが難しいなと思いつつ日々過ごしています。特にコミュニケーションが難しくなってきた段階で、私たちは患者さんが見えているか、聞こえているか、いろんな検査をしても、それが本当に正しいか、日々考えています。

なので、在宅の患者さんは、なおさらご苦労が多いと思います。

先ほどデイサービスのお話がありました。今年から県南でもALS患者さんが通える施設が稼働したと聞きました。全県に広まればいいと思います。私たちが出来ることを全面バックアップしますので、これからもよろしく願います。

◎赤十字病院 柴野先生

松本さんには7年ほど関わりました。初めてお会いしたとき、一生懸命やっている姿を見て、今までALSに関わっていた自分の考え方が、大きく変わりました。本当に多くのことを学ばせていただきました。

◎原先生

私が初めてお会いしたのは平成10年、駆け出しのころでした。その後新潟に戻り、さらにそのあとこちらに戻りました。晩年のおつきあいでした。83歳ということで、天寿を全うされたと思います。松本さん宅に訪問診療して驚いたのが、「環境さえ整えば何でもできる、人生万歳」という意味の、松本さんの詩が部屋に飾ってあったことです。びっくりしました。今日拝見したDVDでも衝撃を受け、考えが変わりました。他にも、松本さんから多くのことを学んだ人がたくさんいると思います。

◎猿田さん(ご遺族)

大潟村の松本さんのおうちにお邪魔して、いろいろ教えていただきました。私は日赤の方にお世話になったのですが、その前に脳研に入院していた時に、松本さんの、マイクロバスのような大きな自家用車で見舞いに来ていただきました。

松本さんにはとてもお世話になって、今日はぜひ感謝を述べたいと思いました。...なかなか、うまく言えません。いろいろありますが、今、一日一日、精いっぱい、皆さんの助けを借りて過ごすことが出来るのがいい思い出になります。

◎能代市 渡辺さん(ご遺族)

以前に松本さんのお宅を訪問して奥さまからもいろんなお話をうかがって、それからはお手紙をくださったたり、一年に一回か二回、4、5回、うちを訪問してくださったたり、県北交流会

に来てくれました。そうしてくれた松本さんのおかげで、本当に、不安なく心配なく、自宅で安心して生活が出来ました。

主人は昨年8月に亡くなりましたが、最初はやはり何度も死にたい死にたいと。9年は短くて本当に残念だったのですが、精いっぱい生きてくれて、自宅で暮らせて、本当に良かったです。たくさんの人とお付き合いがあったのがよかったです。なかなか上手に話せなくてすみません。これからも皆さんとおつきあいたいので、よろしく願います。

◎中森さん(ご遺族)

今日はどうしようかと思ったけど、ぜひ松本さんにお別れを言いたい、感謝を述べたいと思って参りました。7年5か月自宅で過ごしました。入院することはまったくなくて、羽後町の、在宅の斉藤先生に支えていただいて、看取ることができました。斉藤先生はご自分の携帯番号を教えて下さって、いつでも電話していいという体制にしてくれたのがとてもありがたかったです。

母も(こういう催しに)参加したかったのですが、とても体力がなくて。参加されている方はすごいと思います。母が一番ALSの方々と交流したかったと思います。自宅だとなかなか交流が出来なくて。でも、松本さんと田中さんがよくうちに来てくれました。そのことが母はともうれしかったと思います。私もうれしかったです。

母は早いうちに声を失って四肢の方も進行して、やはりほとんどコミュニケーションが取れなくなってしまいました。指先が動いたのでyes/noはわかったけど、そのうちそれもできなくなって、目があかなくなって、こちらのいうことを分かっているか分かっていないかが解らなくなりました。そしたらある日、訪看さんが見えているとき、久しぶりに涙を流して、そうして息を引き取りました。

いつも話しかけても反応がなく、私たちの話を分かっていたか分かっていなかったかと思いましたが、分かっていたからお別れの涙を流したんだと、みんな分かっていたんだよと、看護師さんが教えてくれました。自分の意思で涙を流したのだということがわかって、とてもよかったと思っています。

母は呼吸器をつけていたので、デイなどの施設に入ったことはありません。私も家を空ける

のが年に一度か二度でした。最初は私も自分の時間が欲しいと思っていたのだけでも、今母がいなくなってみると、時間を持って余して時間の無駄遣いをしているように思います。母を一生懸命介護していた時の方が充実していたし幸せでした。凡人は暇だとなんかことをしないと云いますが、そうやって一生懸命介護をしているときの方が充実していると、ALSの母が教えてくれた気がします。

◎岡部宏生さん

今日は参加させていただき、本当によかったです。秋田県支部の活動を見せていただいて、皆さんの力で支援を作る原点を見たように思いました。

これからも秋田県支部を手本にして、患者会の活動をしていきたいと思いました。

〈閉会挨拶〉

事務局 佐藤

今日はありがとうございました。松本さんを偲ぶ会もあり、中身の濃いお話を伺えたと思います。皆様どうぞお気を付けてお帰り下さい。



DVD「松本茂の軌跡 2007」

松本茂さんは1965年、34歳の時に高知県から妻のるいさんとともに大湊村に入植。1984年村のリーダーになった松本さんは村長選に立候補、選挙戦では握力を失った茂さんの代わりにるいさんが握手して回ったが、その年にALS告知を受けた。

1986年4月20日、日本ALS協会の設立総会で松本さん夫妻が挨拶。『この病気ほど人間にとって苦しく憐れな病気はない。自分には何もなくとも、何としても、後からの人のために、一日も早くこの病気が治るよう自分にできることを頑張りたい』『健康な時には考えたこともなかった、生きるということが、いかに大切で大変なことかを、考えています』『この会が一日も早く目的を達成し、この会が不必要になるように願っています』

同年5月、県支部第一号となる秋田県支部が発足。本部から初代事務局長の松岡幸雄さんが参加。『ひたむきに生きておられる尊さを、その生きる戦いを、一緒に手伝って差し上げたい。それがこの会の願いです』『皆で一緒にこの病気に取り組んでいき、一日も早く原因が究明され、この世からこの病気がなくなるように、力を合わせて頑張っていきたい』

合間に松本さんの日常風景。壁に体をくくり付けて立ち、帽子とひもで頭を支えながらワープロの練習をする松本さんと、笑顔でサポートするるいさんの様子が描かれる。

1987年に気管切開手術を受けた。茂さんを見守るるいさんは『手術するよりも自然に終わりたい、死ぬ権利がある、と言っては、いつも私と喧嘩していた。患者なら誰しも考えること』と語る。

1989年には、田んぼのそばにいたいという願いから在宅に踏み切った。当時あまり例のなかった在宅療養を支えるため、松本さんの家には多くの人(命のスタッフ)が集まり、しばしば情報交換を行った。

1991年、故郷の高知県支部結成総会に参加。(飛行機での移動は、機内の通路の狭さや乗り継ぎの不便さなどで厳しいものだった)

総会では女性患者の篠原さんと交流。『篠原さん、皆さんがあなたの前向きな姿勢に感動して、応援してくれたのです』篠原さんの二人のお子さんが元気良く歓迎の挨拶を読み上げた。『今日の日をこんなにも早く迎えることができるなんて。声が出るものなら大声で万歳と叫びたい』

1995年『悪妻とのたたかい』を出版。出版記念会では、主役のるいさんを褒め称える？松岡さんのスピーチに、るいさんが思わず吹き出す一コマも。

1997年、長年ともにALSと闘ってくれた松岡幸雄さんが死去。世界大会を日本でという松岡さんの夢を妻の祐子さん(※ハリーポッターの翻訳者)が引き継ぎ、2006年11月にALS国際シンポジウムが横浜で開催された。開催中の忙しい合間を縫って、横浜で会えたことを喜びあう夫妻と祐子さん。

2007年2月、朝日社会福祉賞をるいさんとともに受賞。『ALS患者として人工呼吸器を装着したままで活発な社会活動を続け、病気に対する社会の関心を喚起し、患者の療養環境の向上に長年に渡って尽力して来られた功績を称えこの賞を贈ります』松本さんご夫妻は『一日一日を夢中で生きてきた私にとっては全く夢のような出来事で、生きてきてよかった』『今日は先生方を始め多くの皆様に見守られながらの受賞で、胸がいっぱい』。

最後に『みなさん いつもありがとうございます これからもどうぞよろしくお願いします』と二人の挨拶で締めくくられている。

※松本茂さんの肉声も収録された約20分間の映像。『悪妻とのたたかい』とともに、ぜひ目にしておきたい貴重な資料です。

〈総会・松本茂さんを偲ぶ会に参加して〉

去る6月5日、平成28年度の秋田県支部総会・交流会が開催されました。昨年JALSA名誉会長の松本茂さんが逝去されたため、総会は終始松本さんの思い出を語る集いとなりました。また先日の国会招聘を経てALS患者と障がい者に勇気と希望を与えたJALSA岡部会長も参加され、秋田県支部を激励してくださいました。

私自身は2回目の総会参加で、母が人工呼吸器を装着してからは初となります。昨年と違い母が24時間の喀痰吸引を必要とする今は、手厚い公的支援を受けられる有難みを日々噛みしめております。それはひとえに松本さんを始めとする先人の方々の並々ならぬ努力によるものと聞き及んでおります。そもそも公的支援が充実していなければ母は延命を決意できませんでした。叶うならば松本さんがご存命のうちに伺って直接お礼を申し上げたかったです。

松本さんは名誉会長としての全国規模の活動だけでなく、県内の多くの患者さんのお宅を訪れて積極的に交流を持っておられ、総会ではそんな患者さん方の話も聞けました。皆さんが口々に『松本さんご夫妻から生きる希望をもらった』と話していたのが印象に残り羨ましく思いました。

医療従事者の方々からは、松本さんご夫妻が日々の療養生活で編み出した知識を積極的に公開されていた話がありました。松本さん発祥の知識は直接あるいは訪問看護や事業所を通じて県内に広く浸透しており、私どももどれほど助けられたか分かりません。

今後新たにALS患者になられた方は、日々症状が進行していく迷いと葛藤の中で、松本さんについて学ぶことが大きな助けになると思います。私達秋田県人は、松本茂さんに直接お会いできなくとも、ご家族が健在であることと周りに松本さんを知る人が多いことから、松本さんのお人柄を知る機会に恵まれております。しかし秋田から離れた地で暮らす人や今後時間が経ってからの世代は、映像や記録でしか松本さんを知ることができない分、今回上映されたDVDや松本さんの著作や刊行物が今後ますます貴重な資料となっていくものと思われまます。

私も微力ながら一つでも多く松本さんの記録を残すお手伝いができたらと思い、今回の皆さんの談話を素人速記させていただきました。ただ力及ばず聞き取りできなかった箇所もあることをお詫びします。また支部だよりの紙面を与えていただいたことに感謝いたします。

ALS患者を取り巻く環境は今も充分とは言えず、多くの方が制度や体制の改善を目指して日々活動されています。私たちにできるのは、松本さんと先人の方々が作り上げた実績をしっかり受け止め、支え、たとえ僅かでも自分なりの実績を足して次の世代へよりよい環境を引き継いでいくこと。それが母の命を救ってもらった恩返しになると、今回の総会に参加してしみじみ実感いたしました。

齊 藤 康 子(能代市在住)

2016総会アンケート結果

(2016.6.5)

13/92 (名) 患者：1名 家族：3名 ボランティア：1名 学生：1名
ヘルパー：2名
その他(看護補助者：2 行政(薬剤師)：1 患者さんの娘さんの友人：1
NAOのたまご代表：1)

●本日の企画に関して

- ・昨日、新聞を見て駆けつけました。9月に「風は生きよという」の自主上映会を開催するとのこと。えびはらさんから伺っております。私も来年度、同じ映画を見たいと思っていますので、ぜひ、お話しなどしたいと思っています。
- ・いろいろな患者さんの話を聞き、勉強になりました。
- ・今回参加させていただき、勉強になることがたくさんありました。ありがとうございます。
- ・松本茂さんの功績、この会の継続的な尽力に頭が下がります。皆さんが暮らしやすい秋田にできるよう私もがんばります。
- ・初めて参加させていただきました。松本名誉会長のご功績に感銘を受けました。
- ・とても良い企画だと思いました。上映されたDVD入手可能でしょうか。もし可能でしたら、ご連絡を頂きたいです。
- ・皆さんが各地から集まって、情報交換、交流が出来る事はとても良い機会が良い事だと思います。
- ・松本さんを偲ぶ会に出席できて、本当に良かったです。松本さん、奥様のるいさんの偉大さを感じます。
- ・故松本さんには、大変お世話になりました。ALSのこと、自宅療養、合図のベルのこと、そして、脳研に入院している折、わざわざお見舞いを頂きました。奥様のるいさん、お疲れ様でした。偲ぶ会企画いただき、本当にありがとうございます。
- ・松本ご夫妻に感謝しています。沢山教えていただきました。きっと茂さんもボサノバも聞いて下さったと思います。素敵な企画をありがとうございました。
- ・いろいろな事を参考になりました。勉強となりありがとうございます。
- ・初めて参加しました。勉強になりました。

●日本ALS秋田県支部に関して

- ・私の行っている任意団体の活動と何か、一緒にやれることがあれば・・と思います。参考までに、7/23(土)にPADM代表の方の講演会を行います。よかったらいらしてください。
- ・益々のご発展をご祈念致します。
- ・スタッフの皆様、お疲れ様です。ご支援ありがとうございます。
- ・ボランティアとして参加できたらと思います。

松本さんを偲んで

謹んでお別れの言葉を申し上げます。

私は故主人が脳研に入院していた今から35年前頃に、主人の両親は高齢で時は高度経済成長期、私自身商売をしていたときです。病名を告げられ、この先どうすれば良いかただただうろたえてばかりいた時、脳研に働いていた佐藤夕子さんに誘われ、故松本茂さんに会った事は、生涯忘れられません。頭の中は真っ白になり震えていました。二人に励まされ、「負けてはいられない。全国ALSの会をりっぱなものにするんだ」と言われた私は、とにかく前進するのみと思いました。二人に勧められ主人が初めて松本さんと会った時は、みるみる明るくなり、「これから第二の生き方をする」と言って、病人同志二人で兄弟の盃を交わし、お互いに手紙をワープロで交換していろいろと励まし合っていました。主人は好きな将棋の五段を取ったり、本を出版したり病氣療養中でも22年間ずっと、家庭の事・商売の事を教えてくれました。これもすべて松本さんのおかげです。地域の発展についても大変功績のあった方、私の主人が落ち着きを取り戻し、病と闘ってこられたのも温かい励ましのおかげです。助言・助力を惜しまず、精神的にもいつもくじけそうになっていた私たちを温かく見守ってくれて元気が出たものです。その松本さんが帰らぬ旅に出られた事は、寂しいです。どうか先に天国で休んでいるみんなと一緒に、今までと同様に見守ってください。安らかにお眠りください。最後に冥福を祈り、追悼の挨拶とさせていただきます。

平成28年6月5日

金子レイ子



前列左 金子レイ子さん
前列左から3番目 故松本茂さん



初めてのALSグローバルデー

長谷部 ひとみ

数年前から本部の会報などで、ALSグローバルデーの存在は知っていましたが、秋田県支部としては特に取り組んでは来ませんでした。しかし他県の支部だよりなどでその活動を目にして、秋田でもそろそろ何かせねば、と思いました。初めてなので、活動は募金集めとチラシ配布にして、秋田駅ぽろーどの使用許可を申請しました。

ドキドキしながら迎えた6月21日(火)はお天気にも恵まれ、朝10時に活動はスタートしました。



支部長以下事務局メンバー8名と急きょ応援に駆けつけてくれた数名と一緒に1時間半ほど、道行く人に「ALSグローバルデーです」と呼びかけながら、難病に対する理解を求めました。街頭活動が初めてのメンバーが多く、最初は大きな声も出なかったのですが、立ち止まって募金を入れてくれる人たちに励まされ、最後は皆で声をそろえて訴えることができたと思います。掲示したポスターなどを撤去して、予定の正午少し前に終了し

ました。前日に取材申し込みのあったNHKの取材も入り、お昼と夕方、そして夜9時前の3回ほど「世界ALSデー」として支部長のコメントなどが放送されました。経費を抑えるため、各自でプリントしたチラシを持ち寄りましたが、来年は印刷したものを使用できればと思います。飛び入りで楽器演奏で加わった方もいらして、何かと印象に残る一日となりました。

ちなみに募金は17,220円ほど集まりました。改めて皆様のご協力に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。来年もどうぞよろしく願いいたします。



本部総会に出席するため東京へ

安 保 瑠 女

事務局の鈴木さんから「どうする！東京、行く?!」と打診があったのは確か2月頃でした。今年度はALS協会設立30周年にあたり、定時社員総会・記念講演&式典(以下、本部総会)に出席しないかと言うのです。でも、東京は遠いし、ヘルパーさんが行けるかも分からないし、「ムリムリ！」と返事をしたのだけど、しばらくして「どうする！東京！決めた?!」と聞かれ“行きたいけど行けるかな”に気持ちが傾き、またしばらくして「どうする?!」と聞かれたときに、やっと“行ってみようかな”と気持ちが固まり行くことにしました。「ほほう」と驚かれました。行ってこいと背中を押してくれたの鈴木さんなのに(笑)

本部総会は5月28日(土)に新宿のホテルグランドヒル市ヶ谷で行われました。

東京には新幹線で移動しホテルに2泊し本部総会に出席したのですが、これから旅行を考えている方の参考になればと思い、本部総会の内容ではなく、新幹線やホテルでの様子をメインに報告します。

緊急時に備えて

東京行きを決め、まずは主治医に東京に行くことを伝えました。そしてもしも旅行中に病院のご厄介になる時に備えて紹介状を書いてもらいました。また、人工呼吸器の業者にも連絡しました。トラブルの際には東京の営業所で対応してくれるそうで、事がスムーズに行くよう東京の営業所に私が東京に行く旨の連絡をしてもらいました。

新幹線の切符購入

新幹線の切符購入では、車いす席が空いているかどうかはすぐに分からないため、まずは身障者が何名、介助者何名、車いすの種類といった事項が書かれた申込書で予約が必要で、席が空いているかどうか分かったら電話をもらい、また改めて切符を購入しに行かなくてはいけません。二度も足を運ぶのが面倒なので予約を電話でできないか聞いてみましたが、申込書へ記入してもらわないといけなから電話での予約はできないということでした。また、予約が取れた際の連絡をいつできるか分からないということだったので申し込んだ日はすぐに家に戻りましたが、帰る途中に連絡があったので、時間があるときはそのまま駅周辺で時間を潰して待っていてもいいのかもしれない。

荷物

荷物は3人(私と日勤のヘルパーさん2人)の荷物を持って移動するのは大変なの



で、3人分の荷物をまとめて宅急便で送り、当日は最小限の荷物を持って行くことにしました。

JR

東京行き当日、駅に着くと駅員さんが改札口で待っていてくれて、乗り降りの際はスロープを用意してくれたのでスムーズに乗り降りすることができました。ちなみに東京駅からホテルまでは行きは介護タクシー、帰りは電車を利用したのですが、電車は予約をしなくても乗車駅の改札口で降車駅を伝えると降車駅でのスロープの手配をしてくれます。新幹線同様、降車駅に着いたらドアの前にスロープを持った駅員さんが待っていてくれました。また、東京駅広い構内も丸の内南口に行きたいと伝えたらずっとエスコートしてくれて、お陰で迷子にならずにすみしました。

新幹線の中ですが、他の車いすの方からは、車いす席が狭いので多目的室を利用させてもらったと聞いていましたが、確かに狭く、私の車いすの後ろの席には座れない感じでした。

ちょっと写真を撮れませんでしたでしたが、トイレは車いす対応になっていて、ヘルパーさん2人とフットレストを外した状態で車いすも中に入れることができました。



ホテルにて

ホテルの部屋は私と夜勤ヘルパーさんとでツインの部屋に泊まりました。ユニバーサルルームではないため、そのままでは車いすでベッドサイドまで行けず、使用しない椅子等は日勤ヘルパーさん達の部屋に押し込み、ベッドも介助しやすいように模様替えが必要でした。

ベッドですが、私は仰向けでギャッチアップしないと寝れないのですが、ホテルのベッドはフラットだし硬いのでそのままでは寝れないので、羽根布団(一枚では足りず、夜勤ヘルパーさんの布団も奪う)を敷いたりホテルから枕を何個か借りてギャッチアップする工夫をしました。多少デコボコしているけど、ぐっすり眠ることができました。ちなみに他の方はどうされているのか聞いたところ、フラットのまま側臥位で寝ているという方が多くて、硬いマットレス対策にはディスカウントストア等で購入した安いエアーマットを利用しているという方もいました。

トイレは何とか使用できましたが、お風呂は使えず、ドライシャンプーと清拭で我慢しました。余談ですが、今回の出張ではちょっとしたハプニングがありました。東京行き当日に羽田空港で大韓航空機の火災事故があり、運悪く別行動で飛行機で一足先に東京入りしていた夜勤ヘルパーさんが羽田空港に降りられなかったのです。東京駅でばったり会い、どこかを観光してきたのかと思ったら、事故のせいで今しがた東京駅に着いたのだというではないですか。最初は関西空港に向かうと言われたけど最終的に成田空港になったと聞きびっくりしました。

本部総会では会場に収まりきれない程の人で、ALS患者の方たちも多数集結し圧巻の光景でし

た。さまざまな車いす、使用している器械、介助方法などを見ることができてとても勉強になりました。

また、記念講演では「ALS原因究明・治療法開発の歩みと展望」と題して名古屋大学大学院医学系研究科特任教授 祖父江元先生からALS研究の現状を伺うことができました。詳細はJALSA 99号に掲載されておりますが、治療に関して大きな転換期に入りつつあるのだそうです。iPS細胞が発見されたり多くの遺伝子が見つかっていて、今後は早いピッチで次々に薬が出てくるという話しに、ALSももうすぐ治せる時代が来ると、とても希望を持つことができました。

本部総会への出席の機会を作ってくれた事務局の方々やヘルパーの皆に感謝です！



初孫と。。。。

梅川 捷子

7月に新しい家族が増えました。

ALSになって18年、抱っこできるとは想像していませんでした。支えてくれる皆さんのおかげです。健やかに育つことを願うばかりです。





ご寄付ありがとうございました

平成28年4月1日～平成28年9月30日 敬称は省略させていただきます

- ・佐藤 倫子 (盛岡市)
- ・和田 千鶴 (由利本荘市)
- ・澤田 悦子 (秋田市)
- ・竹林 章子 (荒川区)
- ・長門 輝美 (八峰町)
- ・長門 健作 (八峰町)
- ・長門 百合子 (秋田市)
- ・千葉 憲悦 (大潟村)
- ・新内 美智子 (金山町)
- ・金子 レイ子 (秋田市)
- ・飯村 禮子 (練馬区)
- ・大竹 進 (青森市)
- ・長門 鉄二 (泉佐野市)
- ・佐々木 久子 (にかほ市)
- ・神馬 歩 (鹿角市)
- ・菅原 トシエ (秋田市)
- ・松谷 彦子 (根室市)
- ・右谷 美和子 (美郷町)
- ・芳賀 友子 (秋田市)
- ・小松 裕 (大津市)
- ・大道 笑美子 (富山市)
- ・飯塚 妙子 (秋田市)
- ・渡辺 アチ子 (能代市)
- ・梅川 捷子 (横手市)
- ・中村 朝夫 (秋田市)
- ・櫻田 美穂 (能代市)
- ・後藤 志朗 (羽後町)
- ・山口 貴美子 (潟上市)
- ・西尾 文子 (恵那市)
- ・土井 宏子 (大潟村)
- ・松岡 齊 (茨城県)
- ・グローバルデー募金
- ・木村 真澄 (大潟村)
- ・林 秀明 (町田市)
- ・工藤 俊輔 (秋田市)
- ・大湯リハビリ温泉病院(鹿角市)

皆様の心のこもるご寄付は、支部活動の源となっております。

ご厚志に深く感謝申し上げます。

郵便振替

口座番号：02510-3-7658

加入者名：日本ALS協会秋田県支部

ご寄付のお振込みは、上記へお願いいたします。

* 日本ALS協会へ入会希望の方は、次頁『入会申込書』をFAXしますと
会員納入の振込票が送られてきます。

編集後記

今年は、暑さがいつまでも残るなあ・・・と思っていたら、10月に入ると急に秋が深まりました。11月に皆さんのお手元に支部便りが届く頃には、冬を間近に感じる頃でしょう。

今回は総会の内容をお届けしますが、支部設立30周年という節目の総会であり、数々のご功績を残した松本茂様を偲ぶ会でもありました。今の事務局で出来る範囲での内容を企画しましたが、多くの方々の参加を得たこと、また、皆さんとご一緒に松本様を偲ぶことが出来、誠に感謝しております。

昨年新支部長のもと、動き出した支部ですが、今年は、初めての試みとしてALSグローバルデーに街頭での募金活動を行いました。微力ながら皆様ニーズに応えられるように活動していきたいと考えています。今後も皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。(あ)

NHK 歳末たすけあい



赤い羽根共同募金

この支部だよりは歳末助け合い共同募金の助成金で発行しています